

防災気象情報の改善に係る取り組みについて

令和5年5月
大阪管区気象台

線状降水帯の予測精度向上等に向けた取組

線状降水帯の予測精度向上を前倒しで推進し、予測精度向上を踏まえた情報の提供を早期に実現するため、水蒸気観測等の強化、気象庁スーパーコンピュータの強化や「富岳」を活用した予測技術の開発等を早急に進めています。

観測の強化

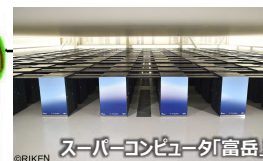
- ・ 陸上観測の強化
- ・ 気象衛星観測の強化
- ・ 局地的大雨の監視の強化
- ・ 洋上観測の強化



次期ひまわり
(令和10年度までに打上げ)

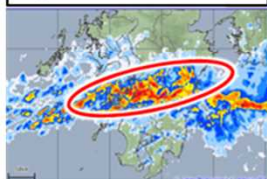
予測の強化

- ・ 高度化した局地アンサンブル予報等の数値予報モデルによる予測精度向上等を早期に実現するためのスーパーコンピュータシステムの整備
- ・ 線状降水帯の機構解明のための、梅雨期の集中観測、関連実験設備（風洞）の強化
- ・ 「富岳」を活用した予測技術開発



情報の改善

令和3(2021)年
線状降水帯の発生を
お知らせする情報
(6/17提供開始)



線状降水帯の雨域
を楕円で表示

令和4(2022)年～
広域で半日前
から予測

令和6(2024)年～
(1年前倒し)
県単位で半日前
から予測

令和11(2029)年～
(1年前倒し)
市町村単位で危険度の把握が
可能な危険度分布形式の情
報を半日前から提供

令和5(2023)年～
(新たな取組み)
直前に予測
(30分前を目標)

令和8(2026)年～
(新たな取組み)
さらに前から予測
(2～3時間前を目標)

線状降水帯の雨域を表示

「迫りくる危険から直ちに避難」・・・段階的に予測時間を延ばしていく

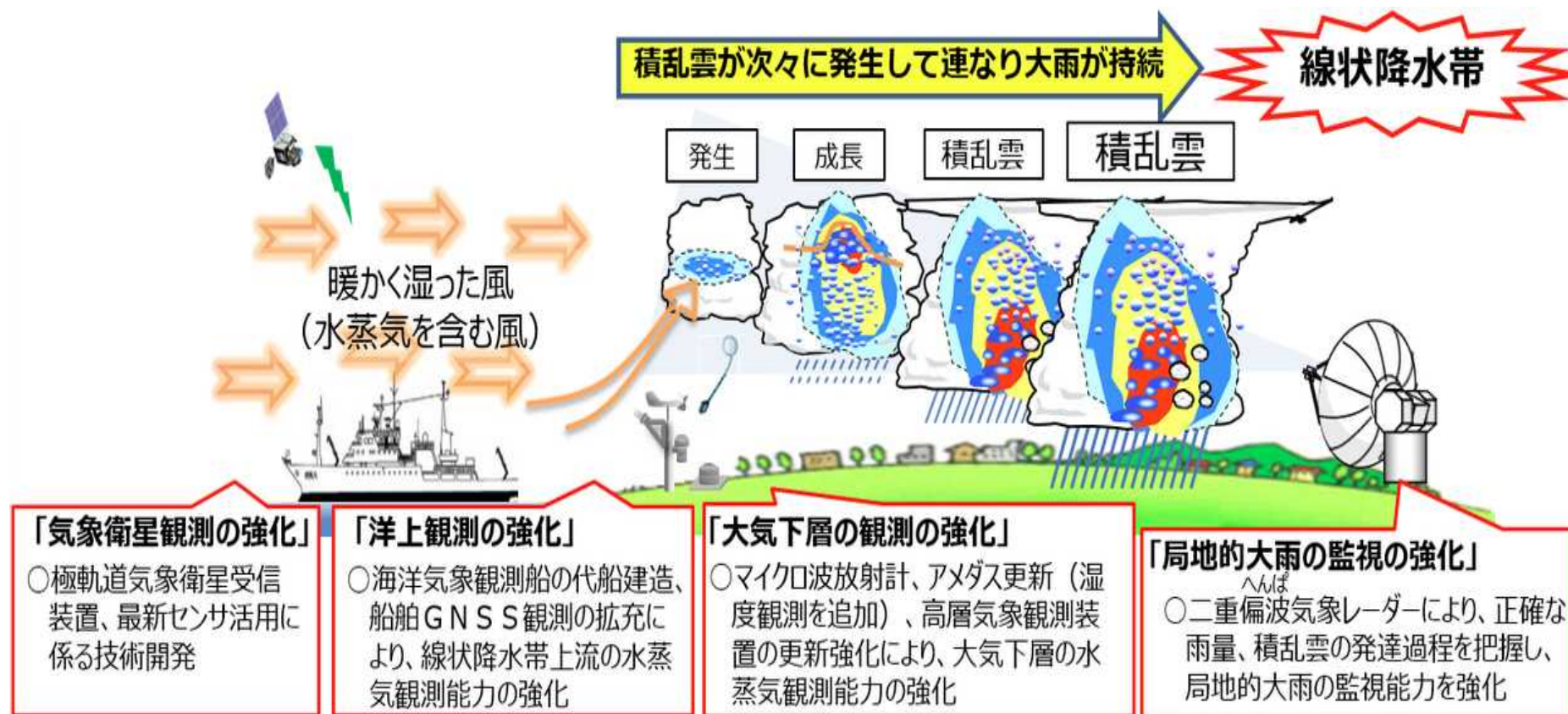
線状降水帯による大雨の可能性をお伝え

順次反映

「明るいうちから早めの避難」・・・段階的に対象地域を狭めていく

※ 具体的な情報発信のあり方や避難計画等への活用方法について、情報の精度を踏まえつつ有識者等の意見を踏まえ検討

観測の強化 水蒸気の観測強化と局地的大雨の監視強化



「線状降水帯予測スーパーコンピュータ」を活用し、
線状降水帯の予測精度の向上及び情報を改善します。

令和5年
3月1日～

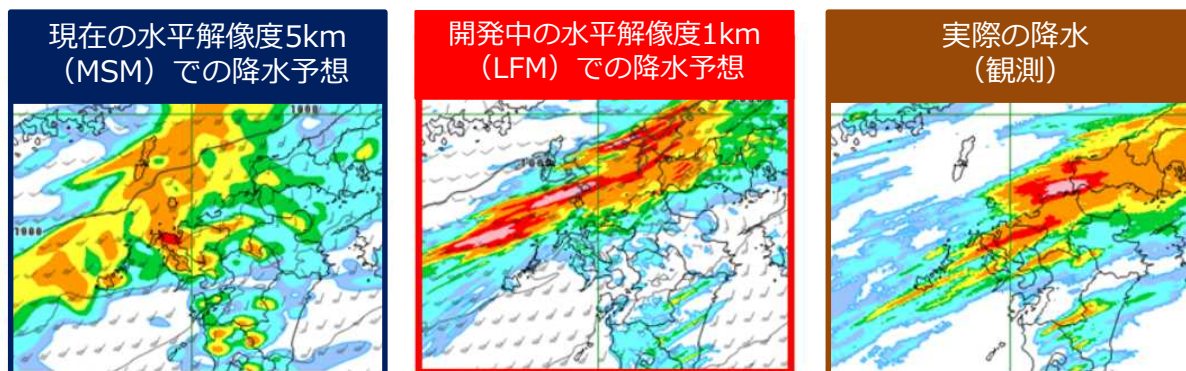
FUJITSU Supercomputer PRIMEHPC FX1000



令和5年度は水平解像度2 kmの数値予報モデル（局地モデル）を半日前からの呼びかけにも
利用できるように（本運用：令和6年度）

令和7年度には水平解像度をさらに細かく1 kmに高解像度化することを目指す

水平解像度1 kmに高解像度化した局地モデルのイメージ



スーパーコンピュータ「富岳」を活用した予測事例の1つ。水平解像度1 kmのモデルでは、
降水域の位置ずれ等の課題はあるものの、**強い降水を予測できる**事例が増えることを確認。



令和3年
6月17日～

- 線状降水帯が発生したことをいち早くお知らせする、「顕著な大雨に関する気象情報」を提供しています。

顕著な大雨に関する気象情報の例

顕著な大雨に関する〇〇県気象情報

〇〇地方、〇〇地方では、線状降水帯による非常に激しい雨が同じ場所で降り続いています。命に危険が及ぶ土砂災害や洪水による災害発生危険度が急激に高まっています。

※ 線状降水帯がかかる大河川の下流部では今後危険度が高まる可能性があることにも留意する必要がある旨、ホームページ等に解説を記述する。

－ 顕著な大雨に関する気象情報 －

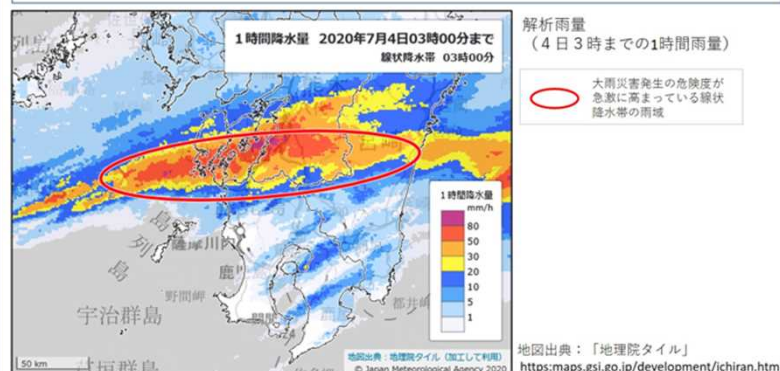
大雨による災害発生の危険度が急激に高まっている中で、線状の降水帯により非常に激しい雨が同じ場所で降り続いている状況を「線状降水帯」というキーワードを使って解説

顕著な大雨に関する気象情報を補足する図情報の例

大雨に関する〇〇県気象情報 第〇号

令和〇年〇月〇日〇時〇〇分 〇〇地方気象台発表

〇〇地方と〇〇地方では、線状降水帯による非常に激しい雨や猛烈な雨が降っています。〇〇日〇〇まで、土砂災害、河川の氾濫に厳重に警戒してください。



次の「大雨に関する〇〇県気象情報」は、〇日〇時頃に発表する予定です。

－ 顕著な大雨に関する気象情報の発表基準 －

- ① 解析雨量（5kmメッシュ）において前3時間積算降水量が100mm以上の分布域の面積が500km²以上
- ② ①の形状が線状（長軸・短軸比2.5以上）
- ③ ①の領域内の前3時間積算降水量最大値が150mm以上
- ④ ①の領域内の土砂キキクル（大雨警報（土砂災害）の危険度分布）において土砂災害警戒情報の基準を実況で超過（かつ大雨特別警報の土壌雨量指数基準値への到達割合8割以上）又は洪水キキクル（洪水警報の危険度分布）において警報基準を大きく超過した基準を実況で超過

令和4年
6月1日～

- 「顕著な大雨に関する気象情報」の発表基準を満たすような線状降水帯による大雨の可能性のある程度高い場合、「気象情報」において、半日程度前から地方予報区※単位等での呼びかけを行っています。



大雨に関する近畿地方気象情報 第〇号
〇年〇月〇日〇〇時〇〇分 大阪管区気象台発表

<見出し> (例)

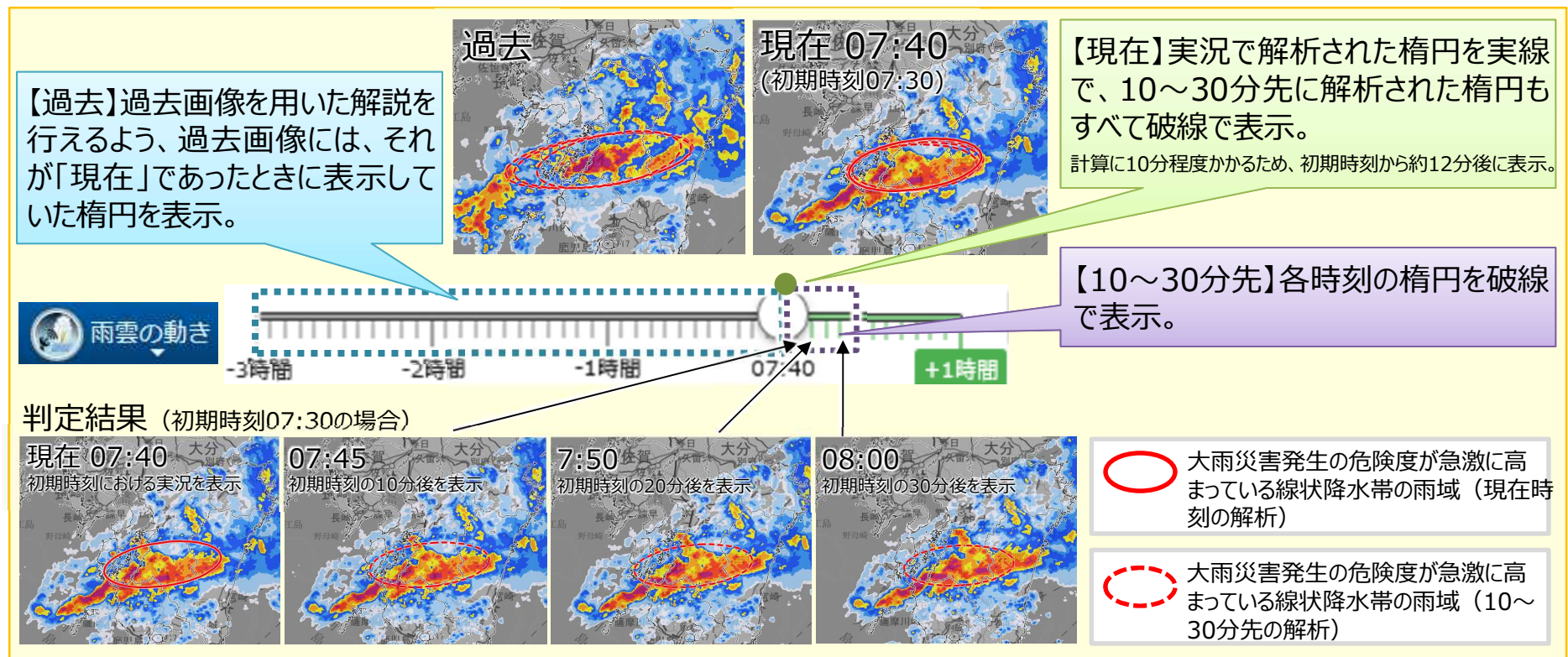
近畿地方では、〇日夜には、線状降水帯が発生して大雨災害発生の危険度が急激に高まる可能性があります。

線状降水帯が発生した場合は、局地的にさらに雨量が増えるおそれがあります。

令和5年
出水期～

気象庁HPの表示

- 「顕著な大雨に関する気象情報」の発表条件に達した地域を地図上で大まかに把握できるよう、気象庁HPの「雨雲の動き」、「今後の雨」の地図上に赤楕円で表示する。



- 「顕著な大雨に関する気象情報」が発表されたとき、どの領域で発表条件を満たしているのか、ひと目で分かる表示とする。
- 時間とともに消えてしまわないよう、表示期間の範囲内では、過去に遡って確認できるようにする。
- 30分先までで発表基準を満たした地域を表示しており、線状降水帯の「継続」や「終了」を予測するものではない。
- 解説しやすさのため、「現在」及び「過去」では、実況で解析された楕円のみ表示するボタンを新設

大阪管区気象台
Osaka Regional Headquarters, JMA

先行時間

1週間前

5日前

3日前

12時間前

3時間前

1時間前

現象発生

随時に発表

最大30分程度早く

記錄的短時間大雨情報

顕著な大雨に関する
気象情報

土砂災害警戒情報

指定河川洪水予報

氣象注意報・警報・特別警報

(大雨・暴風等に関する) ○○県気象情報

台風情報 (進路・強度予報)

線状降水帯による大雨の可能性の 半日程度前からの呼びかけ

週間天気予報・天気予報

早期注意情報（警報級の可能性）

定期的に発表

降水短時間予報

ナウキャスト
(降水・雷・竜巻)

キキクル (土砂災害・浸水害・洪水害)

資料を提示する。7月4日の日付の「日本経済新聞」の表を提示する。

日本経済新聞の「早期注意情報(警報圏の可能性)」
 紙面下部で、日本での地震発生、大規模な津波発生の可能性が示されている。

紙面下部の表

種別と震源の地名	警報圏の可能性			
	震源の深さ(キロメートル)			
種別	40以下	40-49	50-59	60-69
大別	0-10	10-19	20-24	
震度				1991 1992 1993
深さ				
深さ				

日本経済新聞の「早期注意情報(警報圏の可能性)」
 紙面下部で、日本での地震発生、大規模な津波発生の可能性が示されている。

紙面下部の表

種別と震源の地名	警報圏の可能性			
	震源の深さ(キロメートル)			
種別	40以下	40-49	50-59	60-69
大別	0-10	10-19	20-24	
震度				1991 1992 1993
深さ				
深さ				